

平成 30 年度「要望研究テーマ」の紹介

平成 29 年度より、新潟市や新潟市医師会がどのような研究成果を特に必要としているかを「要望研究テーマ」として紹介しています。平成 30 年度は、下記の 4 つのテーマとその必要理由を紹介します。申請に際しては、同じ研究テーマ名にする必要はなく、適宜変更してください。紹介理由と異なる視点での研究計画を立案していただいても結構です。

また、「要望研究テーマ」以外の、研究者自身の自由な発想での研究の助成申請も受け付けます。審査に際しても、「要望研究テーマ」と従来通りの「自由発想研究テーマ」は、同等に扱われます。

平成 30 年度新潟市医師会地域医療研究助成の募集は、平成 29 年 11 月 1 日から開始し、新規研究は 12 月 1 日、継続研究は 12 月 15 日に締め切りの予定です。

【1】 日常生活における歩数と生活習慣病に関する研究

国土交通省は、地方公共団体が健康増進効果にも着目してまちづくりを進めるよう、平成 29 年 3 月 10 日に「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン」を策定し、その中で、1 日 1 歩あたりの医療費抑制効果を 0.065 円から 0.072 円と試算しています。

新潟市においてもスマートウエルネスシティの推進により、歩数を増やす取り組みを進めていますが、本市の歩数データは平成 19 年度の調査が最終となっており、その時点では、1 日の平均歩数は全国に比べて約 2,000 歩少ないという状況です。

成人の歩数の現況や歩数と健康状態の関連について明らかにすることなど、本市の今後の施策展開に資する研究を期待します。

（例）人間ドックを受診する者のうち、協力者を募り歩数と血圧、血糖、血中脂質などの関連を調べ、運動量の効果を検証する。（40 歳代、50 歳代、60 歳代の男女別のカテゴリーで検証）

【2】 高齢者のフレイル対策に関する研究

来たる 2025 年問題をどう乗り越えるかということで、新潟市としても健康寿命の延伸を重要課題の一つと見据え、取り組んでいるところです。そのための解決策の一つとして、高齢者のフレイル対策があります。

フレイル予防（介護予防）のための 3 本柱は、

1. 栄養：口腔機能や食生活、食事の内容
2. 身体活動：地域での体力増進、健康づくり、社会活動
3. 社会性の維持（社会参加）：就労、余暇活動、ボランティア

と考えられます。いずれかの視点あるいは組み合わせで、フレイル予防のための取り組み方やその結果分析、新しい評価方法など課題は多方面にわたりあると思われます。新潟市の健康寿命の延伸に寄与する研究を広く募ります。

【3】 新潟市の救急医療体制の維持・継続に関する調査研究

新潟市では新潟市急患診療センターが休日・夜間の一次救急の拠点となり、市内各病院が輪番で二次救急を担当しています。良好に運営・連携されていると思いますが、現在の体制が将来にわたって担保されている訳でなく、医師不足や医師の高齢化などの様々な課題が横たわっていることも事実です。また、救急医療は休日・夜間に限ることではなく、平日の昼間の救急体制も重要です。高齢化や近くに相談者のいない世帯の増加など、社会が変わりつつある状況や費用負担の問題も避けては通れないと思われます。

将来にわたり、持続可能なかたちで、現在の資源を有効活用するためには、どのような対策が必要であるのか、医療者の側面だけでなく、医療を利用する住民側からの側面等も含めて、救急に係る全ての当事者目線での実証的な分析研究やそれに基づく広報活動を含めた対策の提案を期待します。

【4】新潟市における嚥下障害に対する実態調査とその対応に関する研究

ものを飲み込む嚥下は①舌の運動により食べ物を口腔から咽頭に送る口腔期、②嚥下反射により食物を食道に送る咽頭期、③食道の蠕動運動により胃まで運ぶ食道期に分けられます。嚥下障害はこれらの器官が様々な原因で障害を受け生じます。

嚥下障害が起こると、食物摂取障害による栄養低下と、食物の気道への誤嚥による嚥下性肺炎が問題になります。嚥下障害を引き起こす疾患にはいろいろなものがありますが、とくに脳梗塞・脳出血などの脳血管障害、神経や筋疾患などでは高い率で起こります。また、高齢者の肺炎のかなりの部分は、加齢による嚥下機能の低下によって引き起こされる嚥下性肺炎であるともいわれ、高齢化社会を迎えてその対応が問題になっています。

新潟市内には多くの嚥下障害の患者さんが潜在的におられると推定されていますが、その詳細な実態は不明です。また嚥下障害の原因検索やそれに対しての治療法も標準化されておらず、患者さんの相談窓口や関係する職種も看護師、管理栄養士、言語聴覚士、歯科、医科など多様なため、この方面の研究は喫緊の課題となっております。

今回の研究により新潟市にける嚥下障害患者さんの状況を把握すると共に、適切な治療が受けられるようになることを期待します。